

YAMATO Leaf Archive



《葉画家・群馬直美がこれまでに描いた絵とエッセイをお楽しみください》

— 絵と文 群馬直美 —

秋の夕陽に照山《モミジ》

倉庫の2階を間借りした葉っぱアトリエで、
毎年40度を超える暑さの中、葉っぱの絵を描く醍醐味を味わってきた私だが、
さすがに今年の暑さは6月になる前から生命の危機を感じざるを得ず、
ポータブルクーラーなるものを早々と導入したのだった。
隙間だらけのアトリエは、部屋がまるごと冷えることはないけれど、
熱風が回るだけの扇風機と違い、冷たい風が出てくるポータブルクーラーは、
ああ、砂漠のオアシス。なんて涼しいんだ。極楽、極楽。と、文明の力に感謝！（つつも、
不定形な木の板十数枚に、枯れ葉を描いた《化石》と題した集合作品のことが頭に浮かんだ。
その作品の制作ノートの覚え書きに、
『ごく身近なありふれた葉っぱばかり描いているけれど、
近い将来、「へえ、昔はこんな葉っぱもあったのか」ということになるのだろうか？
それは何千年か後のことであって欲しい』と文章を記したのは、たった29年前のことである。
8年前、ヤマトビオトープ園のモミジの木から、美しく紅葉した一枝を採集して描いた。
—秋になったらモミジは色づき山全体が紅葉し、人々はこぞって紅葉狩りに出かけ、
その美しさに息を呑み、それぞれの人生に想いを馳せ、そしてまた新たな活力をみなぎらせる。
それが、普通で当たり前なことだったけど。
ヤマトビオトープ園のモミジたちは、今年もちゃんと秋の夕陽みたいに美しく色づいてくれるかな？
今回の表紙の絵は、8年前の11月8日に出会ったヤマトビオトープ園のモミジたちの絵。
葉っぱのアトリエで秋の虫の音を聴きながら、この文章をしたためた。

〈ヤマトビオトープ園の葉っぱたちvol.11の絵と、書き下ろしエッセイ〉

《表紙の絵》モミジ

「1枚1枚みんな違う。」

秋の空を彩る線香花火みたいだな。」

・ヤマトビオトープ園にて2016年11月8日採集

(作品の完成日は2016年12月7日)

・紙(ファブリアーノ極細)/テンペラ

size:340mm×245mm

©Naomi Gumma

群馬直美 GUMMA NAOMI プロフィール

高崎市生まれ。1982年、東京造形大学絵画科卒業。在学中に新緑の美しさ、その生命力に深く癒された経験から、“葉っぱ”をテーマとする創作活動に入る。「葉っぱの精神—この世の中の一つ一つのもの全て同じ価値があり光り輝く存在である」に則り、1991年テンペラで克明に描く現在の作風に至る。著書に『言の葉 葉っぱ暦』『群馬直美の木の葉と木の実の美術館』『葉っぱ描命』他。東京都立川市在住。 <https://www.wood.jp/konoha/>